



作品担当者

宮崎 重則

住宅工房 宮崎/宮崎建築 (津支部)

戸建住宅(専用) | 多気郡明和町

齋宮の家

構造 | 木造

階数 | 地上2階

敷地面積 | 495.74 m²

建築面積 | 98.26 m²

延べ面積 | 145.74 m²

竣工 | 令和2年1月



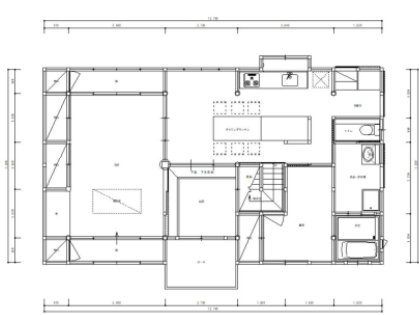
2階 洋間

大空間を家族の成長により、間仕切壁を設けたり、外すことで対応

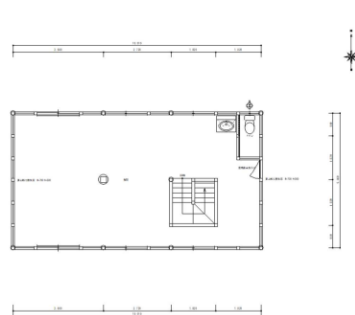


1階 和室

2間続きの6畳間を、敢えて12畳の1間とし、両縁を設け四季に応じて建具の開け閉めで対応



1階 平面図



2階 平面図



ダイニングキッチン



1階梁組 三段組

作品コンセプト

お施主様からの依頼は、概略のプランと屋根は瓦土葺き、壁は竹小舞組荒壁で造りたいとの要望であった。現地を視察し、予算をお聞きし、このような物件は後世に継承される思いで決心した。今、持てる全ての技を生かしたい。敷地が広いので日照や風通し重視の伝統的な環境型住宅とし、所有の隣接する畑への作業動線や、各部屋間の動線を生活スタイルに考慮し設計している。一見簡素でありながらも、細かな納まりや材料・仕上げは吟味し、丁寧に説明しながら計画、工事を進めている。一部の建具を除いて、合板や、新建材は一切使用せずに造りたい思いで、取り組んだ民家である。アクセントで壁面のダイニングキッチンの一カ所面に大津壁弁柄磨きを施し、大津壁の利点を生かした。

三重県産材を多用するにあたり、伝統的な道具、工法を用い手刻みで施工した。主流のプレカットでは不可能な技術を駆使し、特に1階梁組は三段とし、建て方順序や力の流れを考慮し、適材適所での様々な仕口や継ぎ手で納めている。

梁に海山産ヒノキ丸太を角材にすることなく、木組みの軽快さや優しさを創意工夫した。丸太を土場から直接仕入れることにより、樹皮は屋根下地、端材等は階段板、基礎パッキン、見切り等、破棄することなく使用した。

伝統的な造りで設える、土台、柱、梁は骨太とすることで、力強さ、地震時の力の流れや経年劣化、大空間にも耐えられる造りとした。